

2025年3月期 決算補足説明資料



—やすらぎと安心の創造—

証券コード:5237

1. 2025年3月期 連結決算の概要	P. 3
2. 連結貸借対照表前期末比較	P. 9
3. 連結キャッシュ・フローの状況	P.10
4. 連結経営指標（5年間推移）	P.11
5. 設備投資、減価償却費の状況	P.13
6. 2026年3月期 業績予想	P.14
7. 中期経営計画（2024年3月期～2026年3月期）	P.19
8. 株主還元方針	P.21
9. ESG経営への取り組み	P.22
10. トピックス	P.25

1. 2025年3月期 連結決算の概要

1-1 連結損益計算書前期比較

(金額:百万円)

	2025/3月期 実績		2024/3月期 実績		増減		2025/3月期 予想値	
	金額	利益率	金額	利益率	金額	利益率	金額	達成率
売上高	21,954		23,074		▲1,120		23,500	93.4%
営業利益	1,680	7.7%	1,780	7.7%	▲100	-	2,000	84.0%
経常利益	1,838	8.4%	1,938	8.4%	▲100	-	2,100	87.6%
特別利益	116	-	-	-	+116	-		-
特別損失	248	-	529	-	▲281	-		-
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,156	5.3%	874	3.8%	+281	+1.5pt	1,400	82.6%

当連結会計年度は、景気はゆるやかな回復が続いた一方、為替相場の乱高下や消費者物価の急激な上昇等、先行き不透明な状況で推移しました。このような状況のなか当連結会計年度の連結業績は、経常利益ベースで前期比減収減益となりました。売上高については製品価格改定の効果があったものの、アスロックの販売数量の減少により減収、営業利益、経常利益は、減収の影響等により減益となりました。親会社株主に帰属する当期純利益については訴訟損失が前期比減少したこと等により増益となりました。

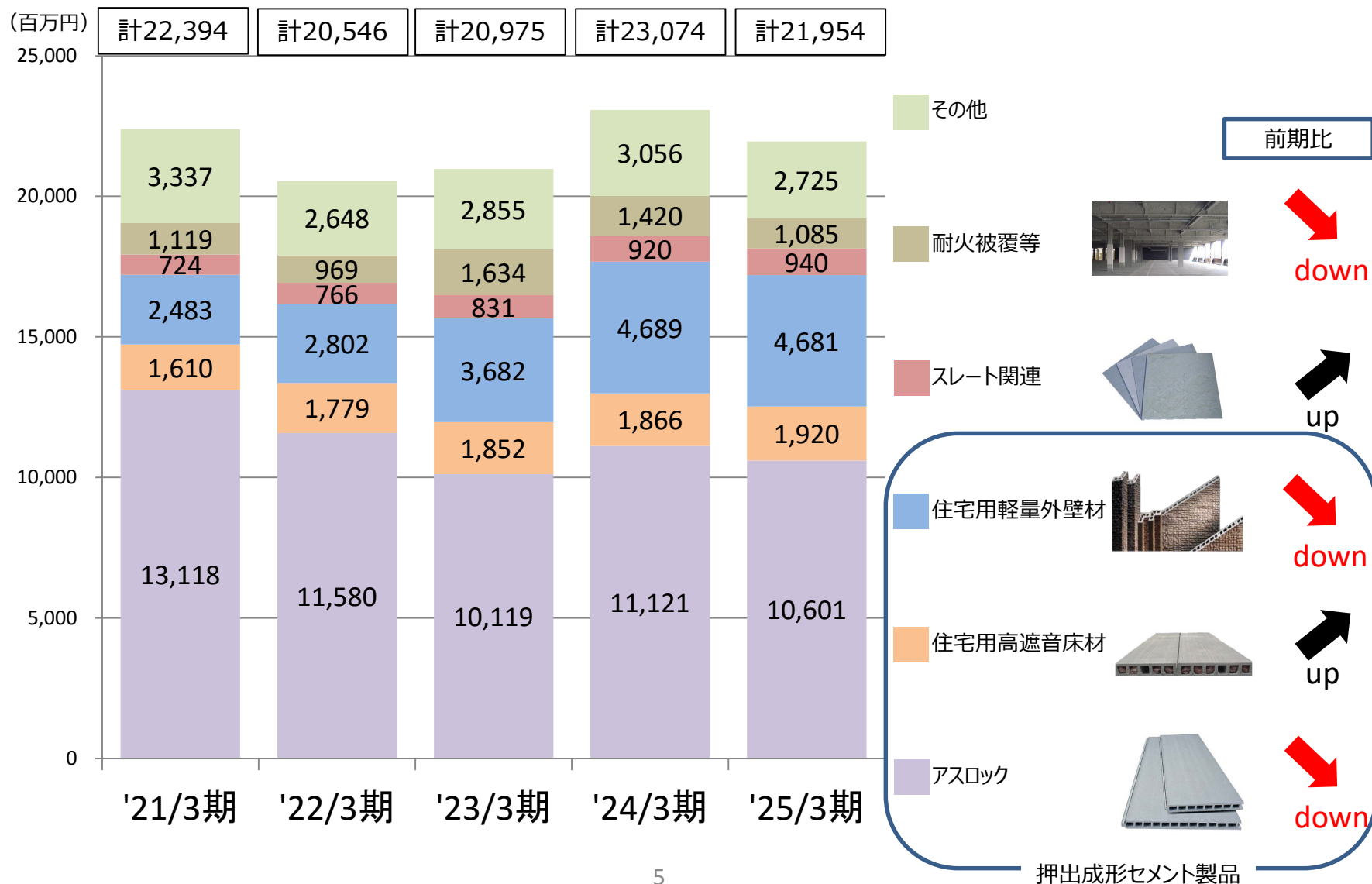
1. 2025年3月期 連結決算の概要

1-2 売上高【前期比11億20百万円減収の219億54百万円】

- 当期における建築市場は、人手不足や資材価格の高騰の影響等により建設計画の延期や中止、規模縮小が増えており建設投資マインドの低下が継続しました。2024年1月～12月の非木造建築着工床面積も前年比10%ダウンとなるなど、2024年以降厳しい状況が続いております。
- 主力の一般建築向け押出成形セメント製品「アスロック」について、当社グループでは高付加価値品の重点的な拡販を推進し、「ウッドデザインシリーズ」や工場塗装品「ニューカラリード」の販売を伸ばしました。また、価格改定の浸透による増収要因もありましたが、上記の厳しい事業環境に加え、施工現場における工期延長による出荷の延期等によりアスロック販売数量が減少した影響から、アスロック売上高は前期比5億19百万円減収の106億1百万円となりました。
- 住宅向け押出成形セメント板は前期に引き続き堅調に推移し、「住宅用軽量外壁材」は前期比8百万円減少で微減となりましたが、「住宅用高遮音床材」は前期比53百万円増となり、合わせて45百万円増収の66億1百万円となりました。押出成形セメント板合計では前期比4億74百万円減の172億2百万円となりました。
- スレートボードは、セメントの質感を活かした内装用ボード「フレキシブルシート素地シリーズ」が引き続き好評を博しており、当期も増販となったこと等から前期比19百万円増収の9億40百万円となりました。
- 工事については、耐火被覆工事の減少等により前期比9億78百万円減収となりました。

1. 2025年3月期 連結決算の概要

1-2 売上高 [連結品種別売上高推移]



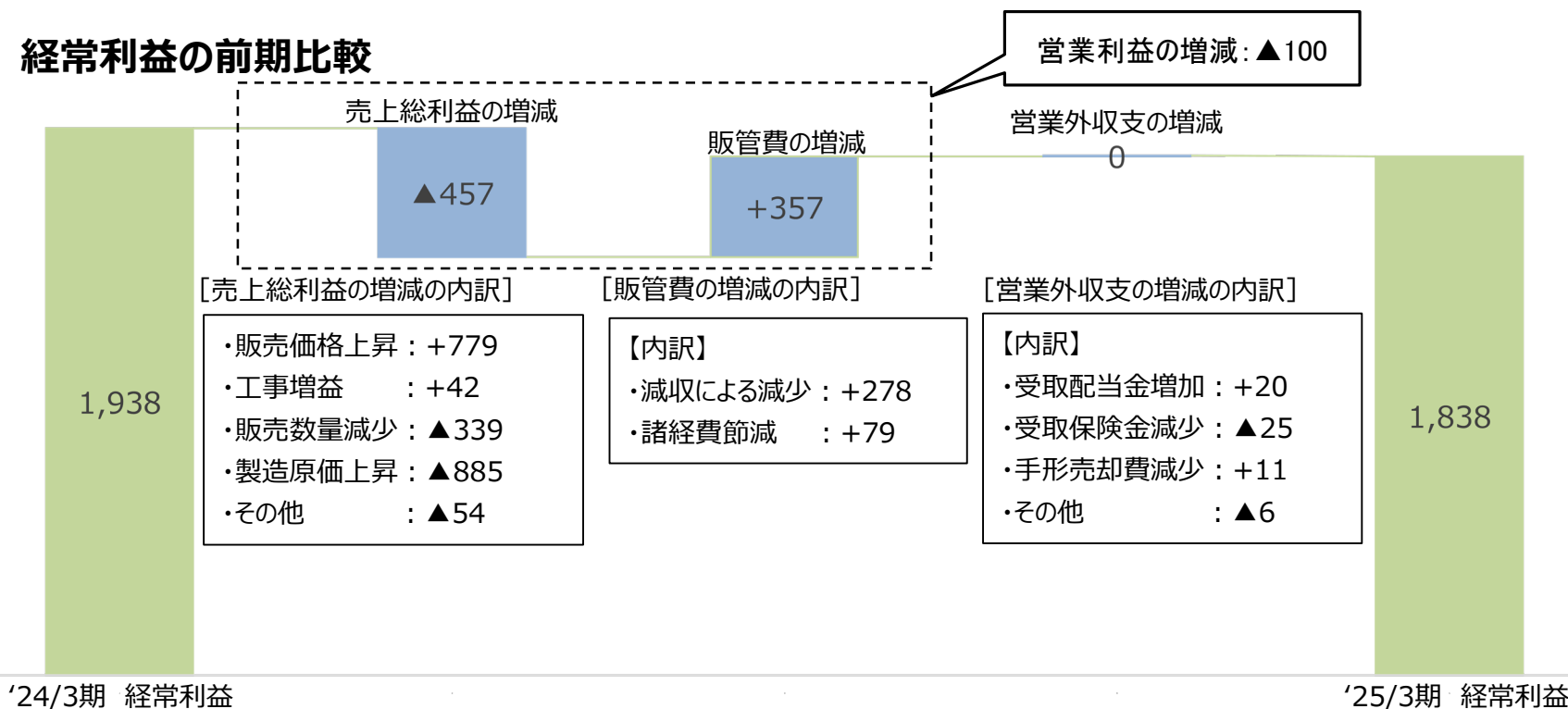
1. 2025年3月期 連結決算の概要

1-3 各段階利益

[営業利益 前期比1億円減益の16億80百万円]

[経常利益 前期比1億円減益の18億38百万円]

経常利益の前期比較



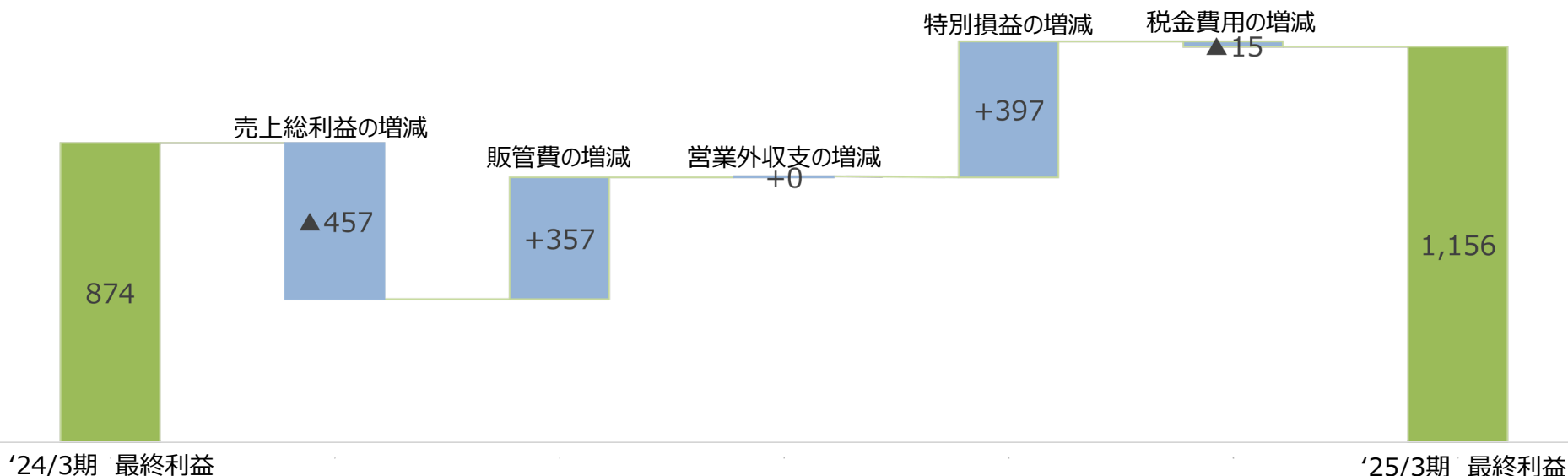
1. 2025年3月期 連結決算の概要

- 当期の原材料・エネルギー価格については、原材料は一貫して上昇、電力・ガスについても下半期より再び上昇に転じ、原材料・エネルギー価格の上昇により3.2億円原価を押し上げました。また、人件費もベースアップや外注費増加により前期比1.9億円増となりました。その他、生産減によるコストアップを含め10.9億円の原価上昇要因がありましたが、NNPS（ノザワ・ニュー・プロダクション・システム）による生産性の向上により、原価上昇を8.8億円に留めました。
- 販売価格改定は確実に浸透しており増益要因となったものの、販売数量減と上記の原価上昇を加味し、販売口売上総利益は4.9億円の減益となりました。
- 工事については、売上高は9.7億円の減収となりましたが、子会社であるノザワ商事の採算性が改善し工事口売上総利益は0.4億円の増益となりました。
- これらのことから、連結売上総利益は前期比4億57百万円減少の61億16百万円となりました。
- 販管費については、前期比3億57百万円減少の44億36百万円となりました。主として減収による変動費の減少によりますが、諸経費節減もあり、売上高比販管費率は、0.6ポイントダウンの20.2%となりました。
- これらのことから営業利益は前期比1億円減益の16億80百万円となり、営業利益率は前期並みの7.7%となりました。
- 営業外収益は、受取配当金が20百万円増加した一方、受取保険金が25百万円減少したこと等により11百万円減少となりました。
- 営業外費用は、手形売却費が11百万円減少したこと等により、前期比11百万円減少となりました。
- これらを併せた営業外収支は前期並みとなり、経常利益は、前期比1億円減益の18億38百万円となりました。

1. 2025年3月期 連結決算の概要

〔親会社株主に帰属する当期純利益 前期比2億81百万円増益の11億56百万円〕

最終利益の前期比較



- 特別利益では、投資有価証券売却益1億円、為替換算調整勘定取崩益15百万円を計上しました。
- 特別損失は前期比2億81百万円減少の2億48百万円となりました。固定資産除却損が68百万円、訴訟損失が2億12百万円それぞれ減少したことによります。
- これらの結果、特別損益の合計は1億32百万円の損失となり、前期比では3億97百万円好転となりました。
- 上記に税金費用を加味し、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比2億81百万円増益の11億56百万円となりました。

2. 連結貸借対照表前期末比較

【連結貸借対照表 主な前期末比増減】

科目	増減額	科目	(百万円) 増減額
流動資産		流動負債	
現金及び預金	▲633	支払手形及び買掛金	▲494
受取手形及び売掛金等	▲432	未払法人税等	+129
電子記録債権	+2,063	賞与引当金	▲11
棚卸資産		その他	+51
商品及び製品	▲216	計	▲325
原材料及び貯蔵品	+3	固定負債	
未成工事支出金	+20	退職給付に係る負債	▲22
その他	▲135	訴訟損失引当金	+176
計	+669	その他	+78
固定資産		計	+231
有形固定資産	▲33	負債計	▲93
無形固定資産	▲21	純資産	
投資有価証券	▲20	資本剰余金	+93
繰延税金資産	▲16	利益剰余金	+752
その他	+185	自己株式	+72
計	+93	其他有価証券評価差額金	▲25
		その他	▲37
		純資産計	+855
資産計	+762	負債純資産計	+762

【総資産の増減】

総資産は前期末比7.6億円増加。
主に現金及び預金が増加したことから、電子記録債権が20.6億円増加したことにより増えた。

【負債の増減】

負債は前期末比0.9億円減少。
主に固定負債が増加、支払手形及び買掛金が4.9億円減少したことにより減った。

【純資産の増減】

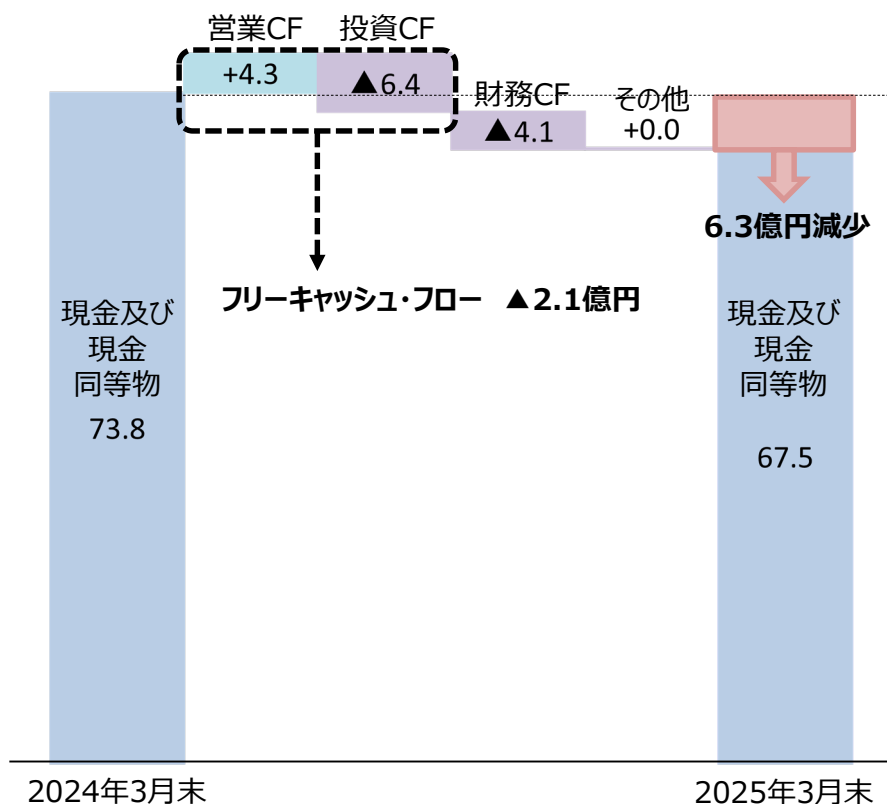
純資産は前期末比8.5億円増加。
主に利益剰余金が増加したことにより増えた。

3. 連結キャッシュ・フローの状況

- 営業キャッシュ・フローは+4.3億円、投資キャッシュ・フローは有形固定資産の取得等により▲6.4億円となり、フリーキャッシュ・フローは▲2.1億円。財務キャッシュ・フローは▲4.1億円。
- 上記の結果、当期末の現金及び現金同等物は前期末比6.3億円減少の67.5億円。

【現金及び現金同等物の増減内訳】

(億円)



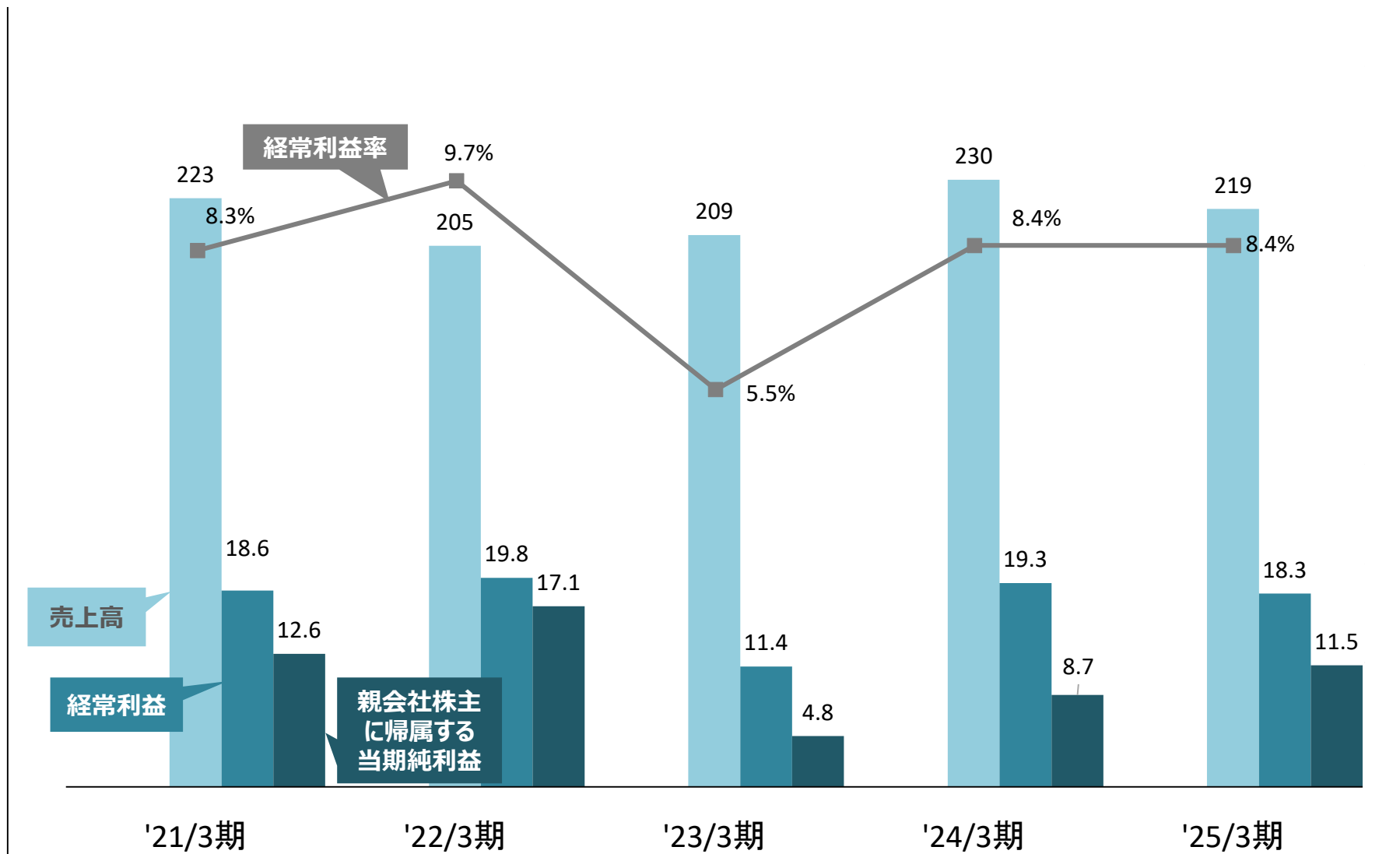
【連結キャッシュフロー計算書 概要】

(百万円)

項目	金額	備考
税金等調整前当期純利益	1,706	
減価償却費	809	
売上債権の増減額	▲1,542	
棚卸資産の増減額	192	
仕入債務の増減額	▲517	
その他	▲217	
営業活動によるキャッシュ・フロー計	431	
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲647	主に有形固定資産の取得
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲417	主に配当金の支払い

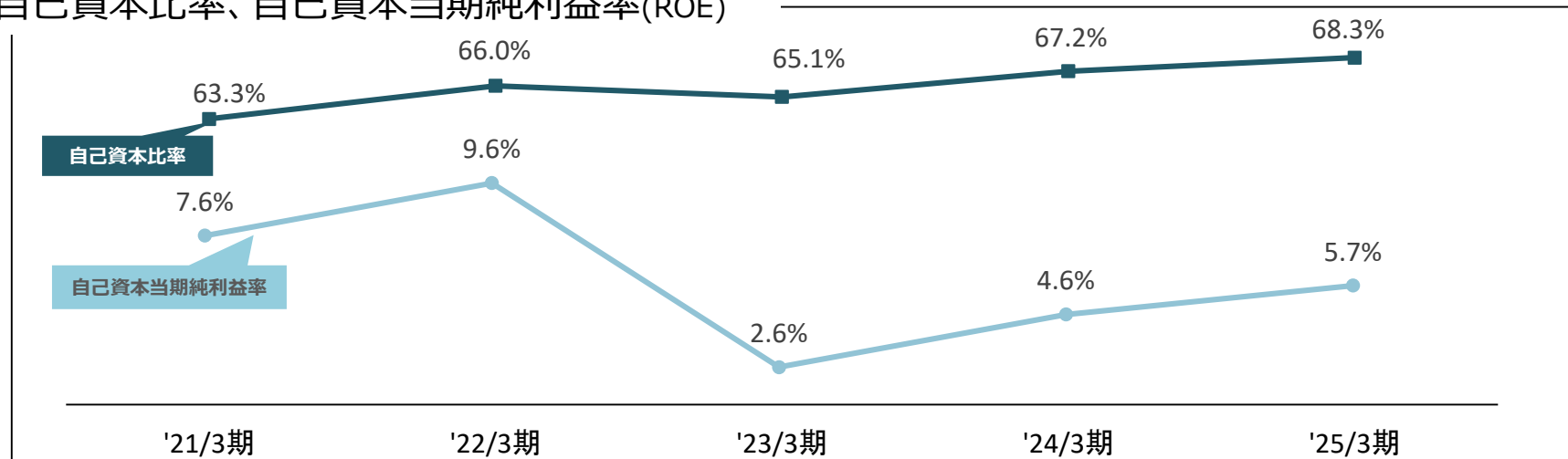
4. 連結経営指標（5年間推移）

売上高、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益（億円）並びに経常利益率（%）

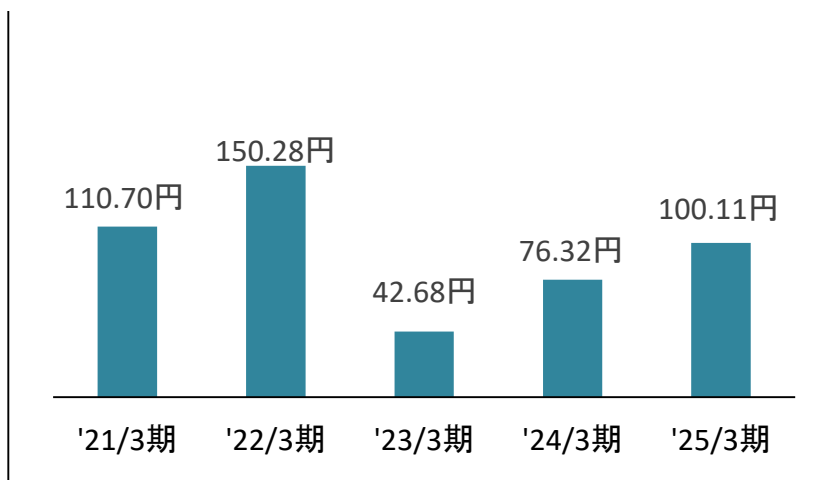


4. 連結経営指標（5年間推移）

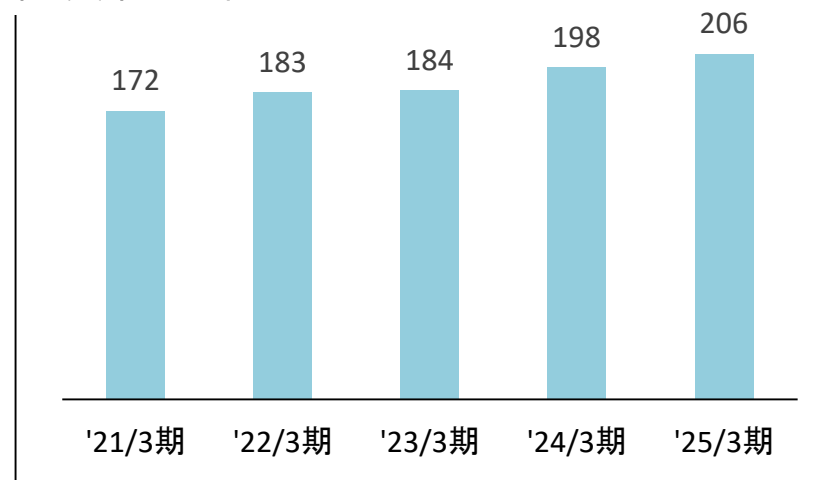
自己資本比率、自己資本当期純利益率(ROE)



1株当たり当期純利益

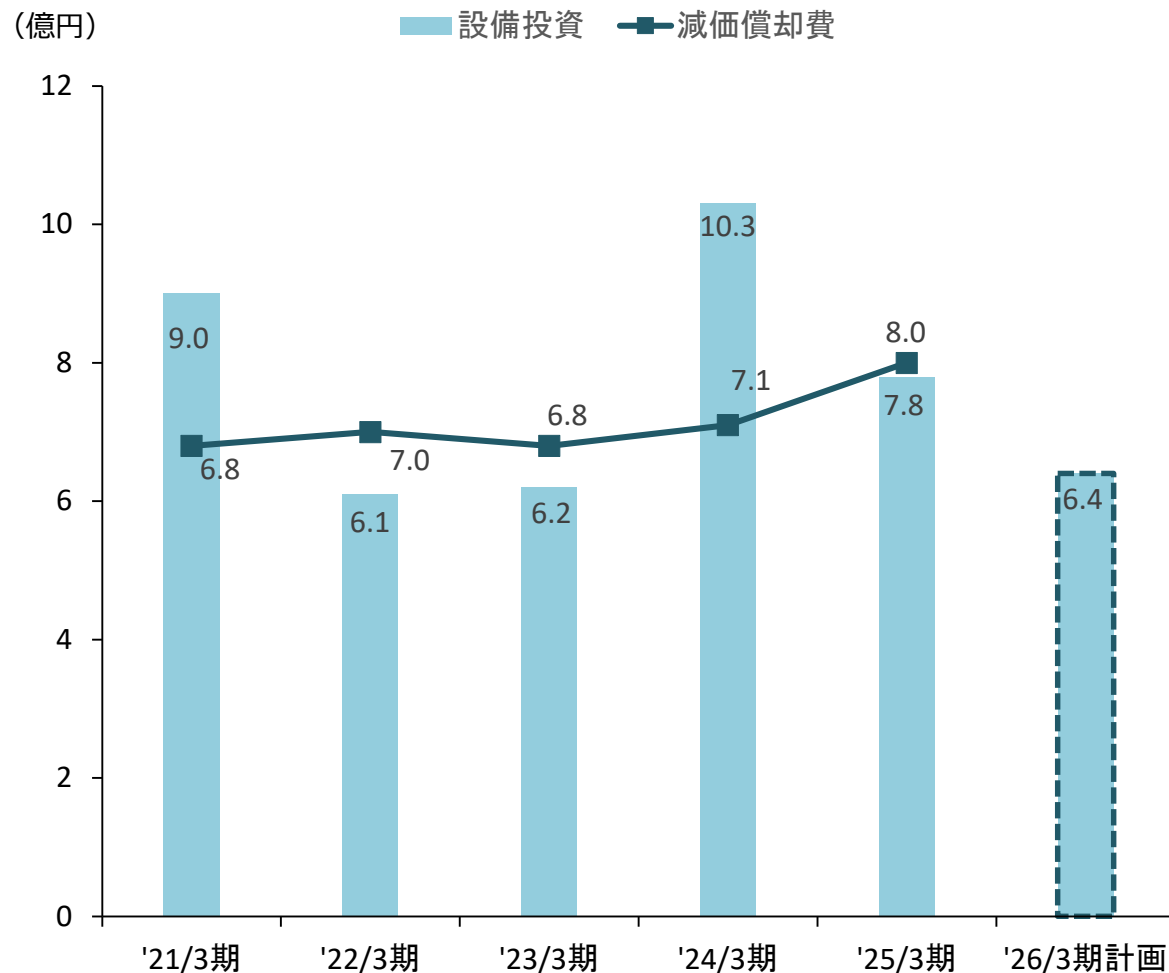


自己資本（億円）



5. 設備投資、減価償却費の状況

【設備投資、減価償却費の推移】



■ 主な設備投資

('25/3期)

- ・ 能力増強
- ・ 各工場設備更新

('26/3期 計画)

- ・ 各工場設備更新

6. 2026年3月期 業績予想

(金額:百万円)

	2026/3月期 予想				2025/3月期 実績				増減			
	第2四半期		通期		第2四半期		通期		第2四半期		通期	
	金額	利益率	金額	利益率	金額	利益率	金額	利益率	金額	利益率	金額	利益率
売上高	11,200		22,500		11,175		21,954		+24		+545	
営業利益	1,060	9.5%	2,070	9.2%	937	8.4%	1,680	7.7%	+122	+1.1pt	+389	+1.5pt
経常利益	1,140	10.2%	2,190	9.7%	1,027	9.2%	1,838	8.4%	+112	+1.0pt	+351	+1.3pt
親会社株主に帰属 する当期純利益	750	6.7%	1,430	6.4%	577	5.2%	1,156	5.3%	+172	+1.5pt	+273	+1.1pt

6. 2026年3月期 業績予想

【上期業績見込】

売上高

- 前期である2025年3月期は、建設業界における人手不足等による建築費高騰の影響を受け、一般建築向けアスロックの販売数量は低迷し、2026年3月期においてもこの傾向が続くと見ております。販売価格改定の浸透による好転要因もあると見込まれますが、数量減によりアスロック販売口売上高は前年同期比減収と見込んでおります。一方、住宅向け押出成形セメント製品については引き続き堅調に推移し、前年同期比増収となる見通しであり、押出成形セメント製品合計では前年同期比増収となる見通しです。
- 工事については、前年同期をやや下回る見込み。これらのことから連結売上高は24百万円増収の112億円を見込んでおります。

利益

- 2026年3月期も原料・エネルギー価格は収まる気配がなく、人件費も増加することが見込まれることから引き続き原価高で推移すると見込まれます。
- NNP S改善活動によるコストダウン、生産体制の最適化を推進し、コストアップ抑制に継続して取り組むこと等により、営業利益は前年同期比1億22百万円増益となる10億60百万円、経常利益は前年同期比1億12百万円増益となる11億40百万円、親会社株主に帰属する中間純利益は前年同期比1億72百万円増益となる7億50百万円を見込んでおります。

6. 2026年3月期 業績予想

【下期業績見込】

売上高

- アスロック販売数量は下期に入っても上期同様の水準で推移すると見込まれ、下期のアスロック販売口売上高は前年同期比減収となると見込まれます。住宅向け押出成形セメント製品については下期も堅調に推移し、前年同期比増収の見込です。
- 工事については下期は前年同期より増収となる見込みで、これらのことから前年同期比5億21百万円増収の113億円を見込んでおります。

利益

- 上期同様、原価高が続くことが想定されますが、上期同様コストアップの抑制及び製品販売価格改定効果により、営業利益は前年同期比2億67百万円増益となる10億10百万円、経常利益は前年同期比2億38百万円増益となる10億50百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は1億円増益となる6億80百万円を見込んでおります。

6. 2026年3月期 業績予想

【通期業績見込】

- 売上高は前期比2.5%増、5億45百万円増収となる225億円、営業利益は前期比3億89百万円増益となる20億70百万円、経常利益は前期比3億51百万円増益となる21億90百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比2億73百万円増益となる14億30百万円を見込んでおります。
- 2026年3月期は厳しい受注環境が続くと想定されますが、収益拡大戦略に基づき、一般建築向けであるアスロックにおいては、2025年3月期の後半に投入した素地仕様品や複色塗装品など、意匠・価格の両面でお客様のニーズを踏まえた商品の採用効果により数量増を目指すとともに、引き続き高利益商品の重点的な拡販に注力いたします。スレートボードでは、素材の持つテクスチャーを高く評価されている「フレキシブルシート素地シリーズ」について、新たな商品展開のため名称を「ナチュラーレ（NATURALE）」に変更するとともに、海洋資源の有効活用に貢献するべく、従来のナチュラーレに牡蠣の貝殻を織り混ぜた「シェルインオイスター」をこの4月に発売しました。今後もナチュラーレの商品群を充実させ、本格的な拡販を進めてまいります。
- 飛躍成長戦略では、社会環境の変化に伴うお客様のニーズの変化を捉え、性能・意匠・価格の面でお客様の要求に応える商品の創出に注力します。

6. 2026年3月期 業績予想

【通期業績見込】

- 体質強化戦略では、製造コストについては、原材料・エネルギー価格高騰によるコストアップを抑制するため、使用効率の改善に取り組むとともに、工場廃棄物ゼロを目指すリサイクルシステムを確立し、環境保全及び原価低減につなげてまいります。物流コストについては、少量物件の積み合わせによるトラック配車台数の低減及び物件ごとの積載効率向上による1台当たりの積載量の増加により、コストの削減を図ってまいります。また、DX・AIを活用し、事務作業の自動化を図り残業代を含めた人件費の低減を推進するとともに、設備化による省人化に取り組んでまいります。

品質面では、製品検査の自動化と施工品質管理強化に継続して取り組み、製品品質と施工品質をレベルアップさせ、お客様の信頼と満足を獲得してまいります。また、本年4月に新設した「人事部」を通じて企業の持続的な成長に必要な人材を確保・育成し、従業員満足度の向上や働きやすい職場環境の整備を実現してまいります。

7. 中期経営計画（2024年3月期～2026年3月期）

＜基本方針＞

2027年の創業130周年に向け、経営基盤の強化と事業の更なる発展を図るため
いつも新しいことを追求、「全社三大戦略プラスONE」を展開し、
全領域での差別化を推進する。

2026年3月期経常利益率12%以上を目指す。

2025年3月期の「全社三大戦略プラスONE」の進捗は
以下の通りです。



収益拡大戦略

○差別化戦略の推進による顧客満足度の向上により基幹事業を拡大

⇒2025年3月期実績：

販売価格改定の効果により7億79百万円収益増

住宅向け押出成形セメント板売上高前期比100.7% ボード売上高前期比103.3%

一般建築向けアスロックに占める高利益商品（デザインパネル、カラー品）比率 前期比+2.0ポイントの36.9%

体質強化戦略

○原料エネルギー高騰に耐えうるコストダウン

⇒2025年3月期実績：NNPS（ノザフ・ニュー・プロダクション・システム）改善活動により

製造原価約2.1億円のコストダウン

○従業員エンゲージメントの向上

⇒ベースアップの実施、技能職のスキルに応じた「技能手当」を新たに創設

7. 中期経営計画 (2024年3月期～2026年3月期)

飛躍成長戦略

他社・他部材との差別化につながる新商品の上市を推進しております。

当期は10件の新商品・新仕様を発表しました。

○差別化商品の新商品開発 3件 (P.24～ P.25参照)

デザインパネル「ドミノラインS」・「ウェーブライン」 エンボスパネル「ライムロック」

○顧客の要望を満足する新商品開発 7件 (P.26～ P.31参照)

⇒2025年3月期新商品発売7件：「デザインパネル ベース厚 75mm品」を仕様追加

工場複色塗装品「淡斑(あわむら)艶消し」・「彩雲」

高層対応工法「アスロックNeo-HS(縦張り工法)」の副資材削減を実現する新仕様

素地仕上品の新仕様「澄肌(すみはだ)」・「潤まだら(うるみまだら)」

ビル外壁の工期短縮に貢献する省力化工法「NEW-LS工法」

○新商品売上高比率30%以上

⇒2025年3月期実績：新商品売上高比率6.9%

「プラスONE」ESG経営への取り組み

○カーボンニュートラルの実現

⇒温室効果ガス排出削減目標に対する進捗状況

2018年度比排出量30%削減 (2023年度実績)

○社会貢献

⇒「旧居留地YellowGiving2025」に協賛 (P.22参照)

○譲渡制限付株式報酬制度

⇒取締役へのインセンティブ付与

⇒従業員に2023年から3年で合計325,400株を割当 (P.23参照)

8. 株主還元方針

新たにDOE（株主資本配当率）を株主還元の指標として2025年3月期より採用

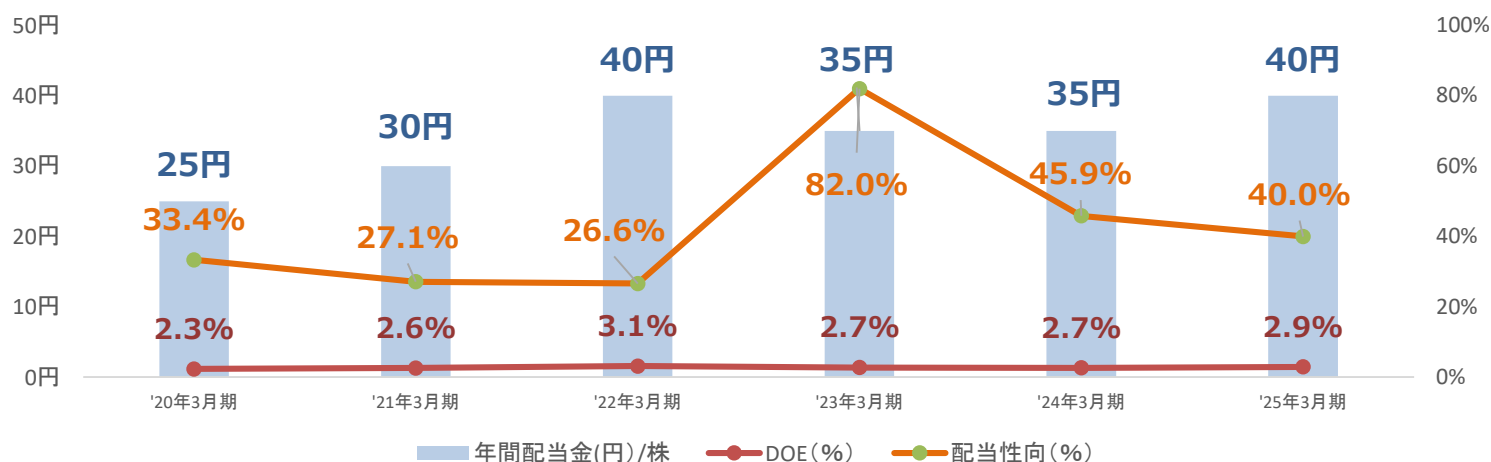
当社は、業績に応じた利益還元に加え、安定的かつ継続的な配当を実現することで、株主の皆様への還元をさらに強化することを目的に、このたび、資本コストや株価を意識した経営を推進し、中長期的に当社株式を保有いただく株主の皆様への利益還元を一層充実させるため、新たにDOE（株主資本配当率）を株主還元の指標として2025年3月期より採用することを決定いたしました。

当社は、将来の設備投資、研究開発に備え、経営基盤及び財務体質を強化すべく内部留保の充実を前提に、連結配当性向30%またはDOE※（連結株主資本配当率）3.0%のいずれか高い方を目標とし、業績に見合った株主への安定的な配当の維持及び適正な利益還元に努めてまいります。

※DOE（連結株主資本配当率）＝（年間配当総額÷連結株主資本）×100

連結純資産から株式市場や為替動向で変動するその他の包括利益を除いた連結株主資本をベースとする。

配当金推移



9. ESG経営への取り組み

環境（E_{nvironment}）……………製品を通じた環境貢献

発電効率50%向上！外壁太陽光パネル設置工法の実物件検証完了

2022年に開発した「アスロックレールファスナー太陽光パネル設置工法」（仮称）の試験施工を完了しました。

本工法は発電効率の高い汎用の太陽光パネルを設置可能とすることで当社従来品（アスロックソーラーウォール）より発電効率約50%UPを実現しています。

太陽光発電システムについては、建物のZEB※貢献や環境への配慮（CO₂排出削減）エネルギーコスト削減などを目的として多くの注目を集めています。

今後、ビル建築において太陽光パネルを設置場所の不足が課題となる中、本設置工法検証で得た施工のノウハウを進化させ本格発売に向け準備を進めてまいります。

※ZEB：Net Zero Energy Building

（建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを目指した建物）



赤枠部分が太陽光パネルです。

J A いわみざわ（いわみざわ農業協同組合）

9. ESG経営への取り組み

社会（Social）・・・・・・社会貢献

「旧居留地YellowGiving2025」に協賛 本社ビルの玄関にミモザの花を飾りました

当社本社所在地である神戸旧居留地にて旧居留地の街を黄色（yellow）く彩るキャンペーン「旧居留地YellowGiving」が開催されました。

（開催日：2025年3月8日～23日）
3月8日の国際女性デーのシンボルカラーであるミモザの黄色は、「感謝」や「希望」を象徴する色で、国際女性デーは、別名「ミモザの日」とも呼ばれています。
当社は、このキャンペーンの開催に協賛し、本社ビル「十五番館」の玄関前にミモザの花を飾りました。



15番館ビルに飾られたミモザの花

9. ESG経営への取り組み

企業統治（Governance）・・・・・・公正・透明な経営

2024年7月役員譲渡制限付株式制度導入 2025年3月従業員への譲渡制限付株式割当て

当社及び当社連結子会社の従業員に対し、当社グループの企業価値の継続的な向上を図るインセンティブを与えると共に、株主の皆様との一層の価値共有を進めることで株価上昇及び企業価値向上への貢献意欲を従来以上に高めることを目的として、当社の取締役（社外取締役を除く。）、従業員に対して譲渡制限付株式としての自己株式処分を行い、取締役には2025年7月に12,000株を従業員には2025年3月に181,800株を割り当てました。
従業員に対しては、2023年から3年で合計319,600株を割り当てています。

10. トピックスー新商品発売

壁面に波の様な陰影の変化を生み出す 新デザインパネル『ウェーブライン』を2025年1月より出荷開始

「ウェーブライン」はパネル表面のリブ高さを最大25mmから最小6mmまで徐々に変化させた形状で、波を打っているように見える壁面デザインを形成することが出来ます。アスロックならではの重厚感と波打つような滑らかな凹凸の変化により、これまでにない風合いのある壁面を構成します。



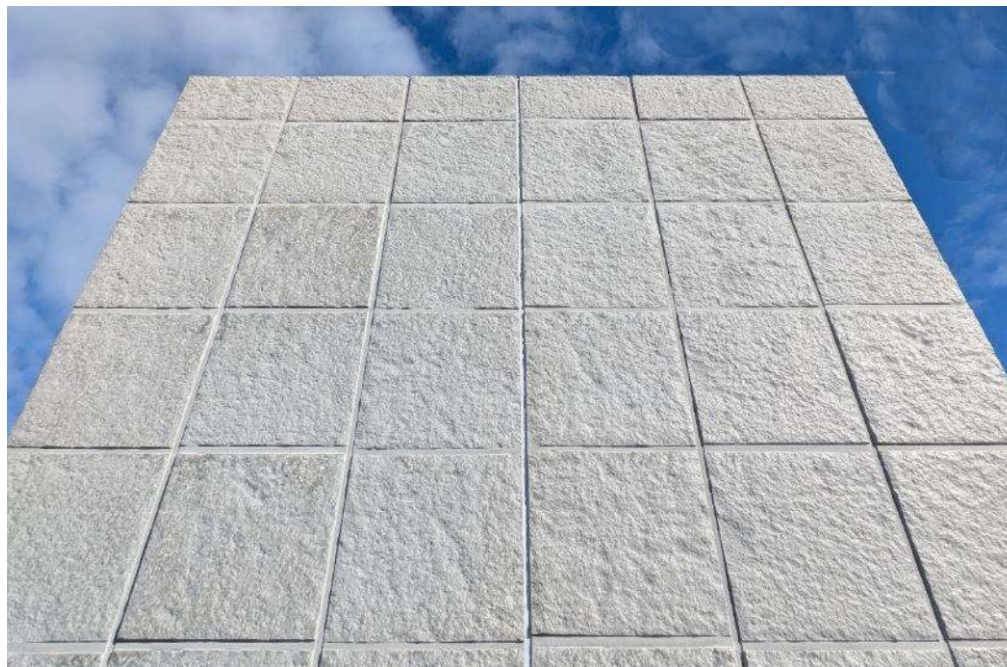
デザインパネル『ウェーブライン』

10. トピックスー新商品発売

300角石柄が重厚感ある壁面を織りなす 新エンボスパネル『ライムロック』を2025年4月出荷開始

※意匠登録出願済み

「ライムロック」は石材として幅広く使用されている石灰岩(limestone)を積み上げたイメージをモチーフにした縦張り専用デザインパネルです。小たたき調の石材が揺らぎをもたせて積み上げたデザインにより、石柄の持つ重厚感を持ちつつ暖かみのある印象の壁面を構成します。



ライムロック

10. トピックスー新商品発売

お客様の「欲しい」という声を、かたちにしました 『デザインパネルベース厚75mm品』を仕様追加

2025年4月出荷開始：トールライン、ジェムロック、ゴジロック 【75mm厚】

2025年1月出荷開始：彩実（あやざね）、糸実（いとざね） 【75mm厚】

建築物の高層化や高階高化が進む中、強風下でも使用可能な長尺パネルへの需要が増加しています。こうした市場ニーズに応えるために、新たに75mm厚のデザインパネル5品種（トールライン、ジェムロック、ゴジロック、彩実、糸実）を追加しました。これらは中高層部や高階高のエントランス部など、特に視認性やデザイン性が求められる場面での使用を想定しています。この仕様追加により、長尺パネルが必要な物件に対して、お客様が思い描く外観イメージを妥協することなく実現いただくことが可能となりました。



トールライン



ジェムロック



ゴジロック



彩実



糸実

10. トピックスー新商品発売

高層対応工法『アスロックNeo-HS（縦張り工法）』 副資材削減を実現する新仕様を2025年5月より販売開始

※特許出願済み

安全性を極めた高層建築向け工法「アスロックNeo-HS（縦張り工法）」の二次防水仕様（外側の目地シーリングが破損しても部屋内側へ雨水を侵入させない二次的な防水措置）を刷新し、高水密性能を保持したまま副資材削減を実現した新仕様を発売します。

■現場作業量

従来のNeo-HS工法と比較して**15%の省施工化**になります。

Neo-HS工法（新仕様）



Neo-HS工法（従来仕様）



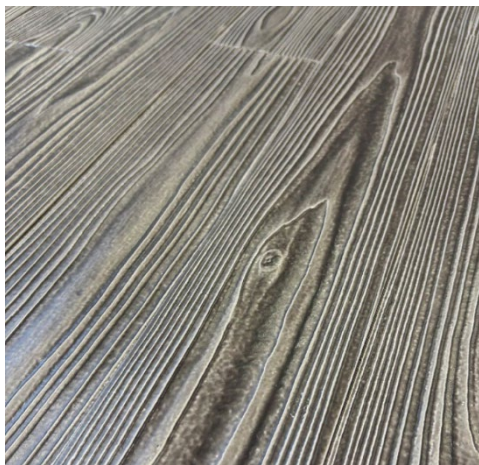
10. トピックスー新商品発売

工場複色塗装『淡斑（あわむら）』に天然無垢の木材を彷彿させる『淡斑（あわむら）艶消し』を発売 2025年4月出荷開始

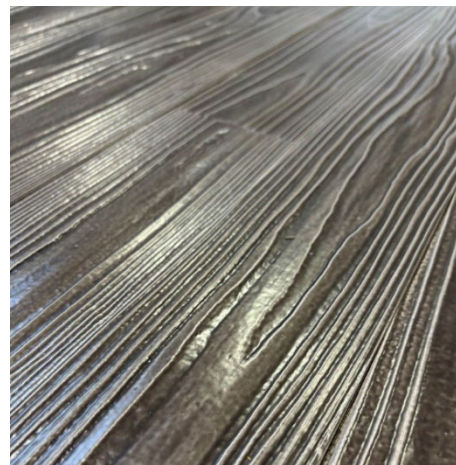
2023年10月に発売した「淡斑」は熟練した外壁塗装職人でしか表現できなかった独特の色斑や染斑を工場塗装で再現可能にした革命的な工場複色塗装品です。

表面の艶は「3分艶」仕上げで、ウッドデザインシリーズに施すことで、拭き漆（ふきうるし）のような上品で控えめな光沢の外観となります。

このたび発売した「淡斑 艶消し」は、艶を完全に抑えた仕上げで、天然無垢材のような落ち着いた風合いを表現します。「淡斑 艶消し」は徹底した管理下で塗装を施す当社工場塗装品であるため、気候に関係なく常に安定した品質をご提供することが出来ます。



淡斑 艶消し

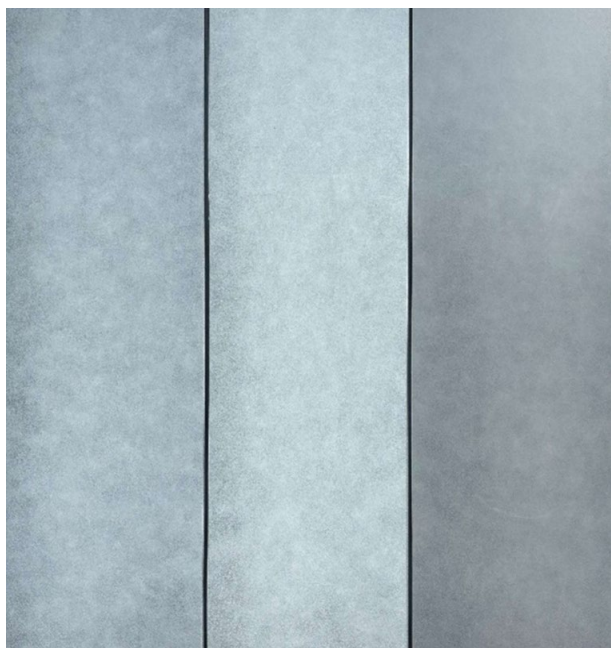


淡斑 （3分艶）

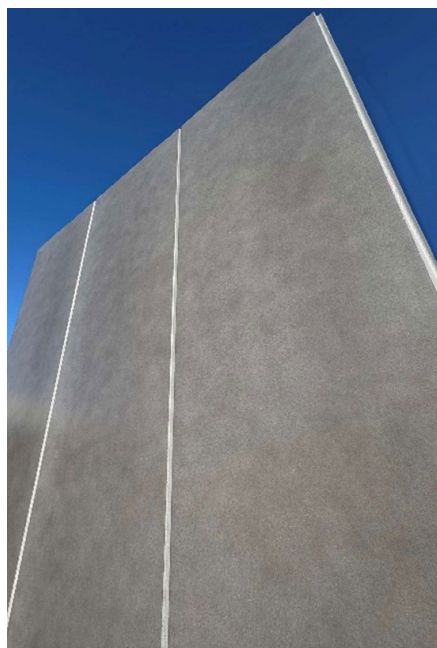
10. トピックスー新商品発売

工場複色塗装『淡雲』の塗装技術を発展させ、薄雲の様な揺らめく色彩斑を演出する『彩雲（さいうん）』を発売 2025年4月出荷開始

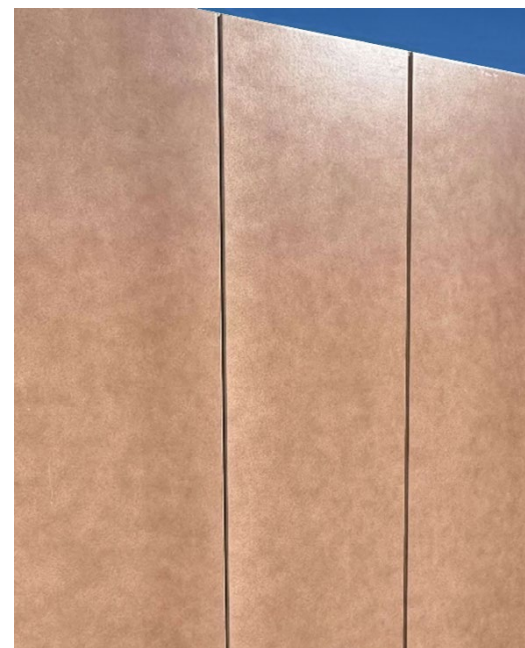
「彩雲」は工場塗装品ならではの高耐久性はそのままに、独自の塗装方法によりトップ色の濃淡を不均一に変化させ、薄く雲がかかった様に淡い色彩の斑を職人の手によることなくフラットパネルにおいて再現しています。不均一な色彩斑が外観に奥行きある深みを演出します。「彩雲」は徹底した管理下で塗装を施す当社工場塗装品であるため、気候に関係なく常に安定した品質をご提供することが出来ます。



彩雲：グレー系3色



彩雲：ブラック系



淡斑:ブラウン系

10. トピックスー新商品発売

セメント系製品で唯一素材のままで使える「アスロック」素地仕様に 新たに『澄肌（すみはだ）』『潤まだら（うるみまだら）』を発売

幅広い意匠ニーズにお応えするとともに、仕上げ工程省略による塗装費用の削減及び工期短縮に貢献します。

■「アスロック」素地仕様

- ・製造時のエフロや色調ムラを残した「潤まだら（うるみまだら）」 **New** 2025年2月出荷開始
- ・製造時のエフロや色調ムラを完全に除去「澄肌（すみはだ）」 **New** 2025年6月出荷開始
- ・製造時のエフロを除去「ナチュラル」 **発売中**

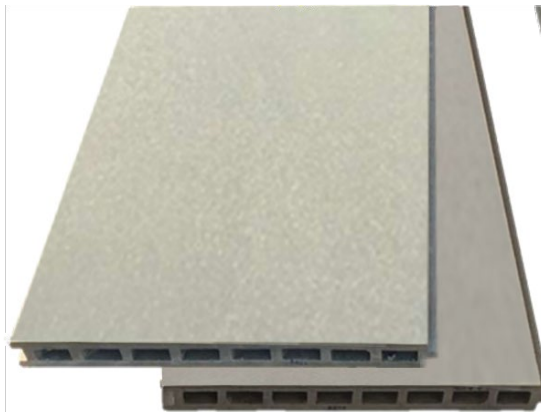
ムラ感

＜色調＞

均一感



潤まだら（うるみまだら）



ナチュラル



澄肌（すみはだ）

10. トピックスー新商品発売

「アスロック」の施工省力化工法「LS(Labor Saving)工法※」をグレードアップした『NEW-LS 工法』を2025年4月より販売開始

■ 水密性能を5,000Paに標準化

従来のLS工法では、二次防水の水密性能値は標準で2,750Pa（5,000Paはオプション対応）でしたが、新たに開発した「NEW-LS工法」では、標準仕様として水密性能値を5,000Paに引き上げました。これにより、強風が吹き付ける高層部や厳しい気象条件の地域でも、安心して省力化工法であるLS工法をご採用いただけます。

■ LS金物の改良で変形追従性を向上

「NEW-LS工法」では、LS金物の形状を改良し、日射による面外変形や地震時の面内変形に対するファスナー部分の追従性をよりスムーズにすることで、変形追従性が向上しました。

※LS工法とは

LS工法は、外壁パネルを取り付ける際の下地鋼材を従来の半分に削減し、さらにガスケット貼りやパネルの穴あけ加工などを工場でする「工場プレ加工」の組み合わせにより、**外壁工事の工期を約30%短縮**することが期待できる省力化工法です。

また、工場プレ加工を採用することで、ガスケットの剥離紙などのゴミが発生せず、**現場でのゼロエミッション**に貢献します。さらに、現場でのクリップの穴あけ加工が不要になるため、粉塵の発生を大幅に抑制し、**作業環境を大きく改善**します。これにより、**現場周辺への粉塵飛散を低減し、建築主にとって重要な近隣対策にも貢献**します。

10. トピックスー商品名変更

フレキシブルシート「素地シリーズ」の商品名を一新、 「ナチュラーレ（NATURALE）」へ

当社が1953年に独自開発し、1956年に特許を取得したフレキシブルシート。その中でも2018年に発売を開始し、多くのお客様からご好評をいただいている「素地シリーズ」の新たな展開に伴い、「ナチュラーレ（NATURALE）」へ名称を変更いたしました。「ナチュラーレ」は、イタリア語で「素朴な」「自然のままの」という意味があり、フレキシブルシート「素地シリーズ」が持つ原材料の素地感をそのまま活かした風合いが特長のセメントボードのイメージを表現しました。今後も「ナチュラーレ」を通じて、皆さまに高品質で魅力的な製品をお届けしてまいります。



当社本社ビル「15番館」エレベーターホール

使用基材：（左）「ナチュラーレ(NATURALE)」「つづれおり」タイプB （右）「ナチュラーレ(NATURALE)」「ベーシック」タイプB

10. トピックスー採用したい建材・設備メーカーランキング

日経アーキテクチュア2024年11月28日号「採用したい建材・設備メーカーランキング2024 押し出し成形セメント板などの外装材部門」において、**9年連続、通算18回目の第1位**に選ばれました。

押し出し成形セメント板などの
外装材（セメント系、樹脂系など）部門

9年連続 1位

読者を対象に、建材・設備メーカーの
製品採用意向等をアンケート調査
2024年11月28日号

RC用外断熱工法部門

2年連続 **3位**

読者を対象に、建材・設備メーカーの
製品採用意向等をアンケート調査
2024年11月28日号

耐火被覆部門

2年連続 **3位**

読者を対象に、建材・設備メーカーの
製品採用意向等をアンケート調査
2024年11月28日号

日経アーキテクチュア 2024年11月28日号

「採用したい建材・設備メーカーランキング2024 押し出し成形セメント板などの外装材（セメント系、樹脂系など）部門」において、9年連続、通算18回目の第1位に選ばれました。

今回のランキングは、1級建築士2580名からの回答をもとに集計されたもので、当社商品は「機能性」「耐久性」「施工性」「デザイン」「コスト」「納期対応」「サポート」の各項目で高い評価をいただきました。

「RC用外断熱工法部門」「耐火被覆材部門」においても、2年連続第3位に選ばれました。今後もお客様のニーズにお応えし、より優れた商品の提供に努めてまいります。

10 . トピックスー社会貢献活動

株式会社ノザワは、大阪・関西万博を応援しています。

2025年日本国際博覧会は「**いのち輝く未来社会のデザイン**」をテーマに、世界中から「いのち輝く未来社会」への取り組みを持ち寄り、未来への希望を世界に示す新しい万博を目指しています。

当社は、この「Expo2025 大阪・関西万博」を応援し、博覧会建設に対する寄附を行っています。

また、当社の押出成形セメント板「アスロック」が、複数のパビリオンで採用されるなど、博覧会の建設に貢献しています。

さらに、当社が製造したCO₂を固定化させた「アスロック」に社名が入った看板を大阪・関西万博に設置しています。



本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後さまざまな要因によって大きく異なる可能性があります。

また、本資料は情報の提供のみを目的としており、取引の勧誘を目的としておりません。